

第1回宗像市幼児教育審議会議事録(要点筆記)

日 時	令和5年10月30日(月) 16時00分～17時00分				会 場	市役所304会議室		
委 員	船越 美穂	○	中山 健	欠	木部 里美	○	北岡 かや子	○
	瀧口 千恵子	○	高橋 茂	○	木村 真彦	○	奥村 美香	○
	溝田 ころろ	○	岩下 桃子	○	大和 寿美	○		
事務局	(子ども子育て部) 早川部長、(地域教育連携室) 賀来参事、(教育政策課) 石川指導主事、(子ども支援課) 姫野係長、(子ども家庭センター) 石松係長、大森係長、(子ども育成課) 許斐課長、平島係長、飯野係長、三吉							

1 あいさつ

子ども子育て部長より開会のあいさつ

2 委員、事務局の紹介

審議会委員(新任の木村委員、高橋委員)自己紹介

事務局職員(子ども育成課長)のあいさつ

3 副会長の選出

副会長に木村委員を選出

4 報告

事務局より「令和4年度の幼児教育事業報告」及び「令和5年度の幼児教育事業計画」について報告

5 協議「幼児教育事業の取り組みで、課題や気になる点について」

○セクシュアリティについて、気をつけている点や課題について

- ・園でプールを行う時は、特に3～5歳児は回りに見えないよう目隠しをして気をつけている。
- ・着替える時にも配慮している。
- ・性の問題の加害者にも被害者にもならない啓発を行っていくことが大切。
- ・性別によって色を決めつけないう、好きな色を選べるよう配慮している。セクシュアリティというよりも個に応じた配慮をするよう気を付けてはいる。
- ・着替える時にも、「あなたの体は大切なんだよ」と優しい言葉をかけると、自分が大切にされていることを子どもは感じることができる。
- ・性教育は生まれた時から始まっている。
- ・小学校教育の性や人権については、幼児教育からの積み重ねである。

- ・無意識の意識化が大切である。
- ・性や人権に関する園の方針や取りくみ、配慮の点などを保護者に園だよりなどでお知らせがあると安心する。
- ・自慰行為のようなものについてどう捉えるか
- ・小さい頃から用を足すときは、トイレのドアを閉めるようにする。
- ・子どもにもわかりやすい性教育の本を活用するとよい。
- ・子どもが困った時は、話しやすいように日頃からコミュニケーションをとることが大切である。
- ・相談支援事業所では、ジェンダーを個性で見えていくようにしている。
- ・性加害者の中には、性被害者の経験がある人がいる。
- ・性の問題においては、幼少期の親子関係が影響していて、自己肯定感や愛着問題とも繋がっている。

○ジェンダーについて

- ・学校では「さん」呼びで統一するようになってきているかと思うが、園では「ちゃん」「くん」呼びをしているのか。
- ・3、4、5歳児については「さん」で呼ぶよう気を付けてはいるが、園として統一して徹底はできていない。
- ・朝礼等での呼び方は「さん」だが、日ごろの保育では親しみを込めて「ちゃん」「くん」で呼ぶ場合もある。
- ・卒園式などは、「さん」で統一して呼んでいる。
- ・園児の中には、心の性が違うと気づいている子もいる。
- ・先生向けの研修会で、「性教育」をテーマにした研修会を開催についても検討してほしい。
- ・ジェンダーに限らず人権意識は日常でも心掛けている。
- ・「女の子だから」「男の子だから」といった固定観念にとらわれないようにしている。
- ・お互い尊重し合うことが大切である。
- ・発達の違いや家庭環境の違いを知ることが大切である。
- ・何でも話せる関係を築いておくことが大事

○外国につながりをもつ子の課題について

- ・インクルーシブ教育においては、一人一人の違いを尊重し、その子に合った支援をすることを大切にする。
- ・園で土曜日に行った親子体験活動では、外国人の親から絵本を英語で読んでもらい、言葉の違いを理解し合うことができた。
- ・現在、園に通っている外国籍の保護者においては、今のところ不安はない。
- ・文化の違いを知り、文化に慣れ、豊かさを感じれるよう関わるのが大切。
- ・言語には二種類あり、生活言語と学習言語がある。
- ・幼児教育から小学校教育の接続で大切なことは、「やってみよう」という意欲である。
- ・全ての児童に教育を受ける権利がある。
- ・友だちという空間が楽しいと、自然に日本語を覚える。
- ・大切なことは、友だちといかに楽しく、学校生活を送ることができるかである。
- ・現在、市が把握している外国籍の情報を教えてほしい。

【事務局】

- ・両親がどちらも外国人で、宗像市内の園に在園中の人数は5歳児が5人、4歳児が4人の計9人。
- ・学校では、特別に日本語指導が必要な児童生徒については、日本語指導担当教員が最大で週に4時間の日本語指導を行っている。
- ・小学校へのつながりを考えると、集団での生活を経験しておくためにも、まずは就園することが大事。
- ・文化の誇り、多文化共生教育の取り組みも必要である。
- ・その子のアイデンティティを育てていく。
- ・外国にルーツをもつ子というと、どうしても言葉の問題に目が行きがちになるが、気を付けないと同化教育になってしまう。大事なのはそれぞれの文化やアイデンティティを尊重することであり、それがインクルーシブ教育である。

○その他

- ・保育所や幼稚園の一覧があると良い。転入してきたばかりの保護者からも一覧で見れるものがあると良いとの声を聞いている。
- ・これまでは広報誌で園が紹介されていたが、分かりやすかった。

【事務局】

- ・ホームページに一覧を掲載しているが、欲しい情報に辿り着けるよう工夫したい。
- ・保育の日の訪問状況は。

【事務局】

- ・令和4年度実施園は10園で訪問者数は23人。令和5年度実施園は17園で、訪問者数は64人。新型コロナウイルス感染症の5類移行の影響もあると思うが、学校や園への案内も細やかに行うよう改善し、昨年度から参加園、参加人数ともに増えている。
- ・就学相談の受入状況を知りたい。

【事務局】

- ・担当課である教育政策課からは、年長児については可能な限り受けられるよう園と調整を行っていると聞いている。
- ・就学相談の申込者数を知りたい。

【事務局】

- ・教育政策課に確認をして次回、回答する。

6 あいさつ

子ども育成課長より閉会のあいさつ